

6.

おわりに

159. CHARP は、チェルノブイリ事故後、数十万人が恐怖や不安を克服し、健康問題に取り組み、より良い生活を送ることができるよう直接支援を行った。CHARP は、必要性が高い情報や助言および支援を提供した。最も重要だったのは、チェルノブイリ事故の被災地住民に、彼らの状況やニーズを気にかけている人々がいることを CHARP が示したことであり、それだけでも CHARP の価値は計り知れない。

160. CHARP は、献身と情報および時宜を得た正しい判断と善意があれば、制約も逆境も覆せることを明確に示した。不足や矛盾、間違った判断、戦略的な計画の欠如、管理面・資金面の問題にもかかわらず、「人類史上最悪の原子力災害後に数十万人が生存し、より良い生活を送ることができるよう支援する」という CHARP の主な目的を間違いなく達成した。

161. CHARP は、数百人もの赤十字職員とボランティア、被災国の各赤十字の中央・支部委員会の会長と職員、訪問看護師、MDL チームの医療従事者、指導員と講師、IFRC の代表団と事務局職員、ならびに資金調達だけでなく要望が高い機器や車両、ビタミン剤および医薬品の提供も手配してくれた寄付提供者である各赤十字社の職員による無私の働きがなければ、実施することは不可能だった。CHARP はこれら多くの方々の献身的な努力のおかげで成功を収めたため、これもどれほど高く評価しても評価し尽くせない。

162. この無私の働きに敬意を表するためには、本書にまとめた CHARP の経験を生かして、今後運営面とプログラム面でより良い決定を下していくが一番だろう。本書は学術的な文書ではなく、CHARP の経験は、チェルノブイリ事故後に前任者が対峙した意思決定に遅かれ早かれ対峙することになるであろうプログラムマネージャー達の手引きとなるはずである。本書に挙げた提言の数々は、そうしたマネージャーが考え得る最善の決定を下せるよう手助けするものである。



2
+

13

13

13

13

13

13